

所属・資格 心理学科・准教授

申請者氏名 河野 千佳

研究課題		妊産褥婦への心理学的アプローチの研究
報告概要	研究目的 および 研究概要	妊娠・出産は母子関係が始まる重要な時期である。しかし25年前と比較すると現在の妊産褥婦は妊娠期の不安が高く、出産後の自己評価は高いもの我が子であるという実感のなさを訴え、情緒が不安定である等両価的自己評価をしていた。この両価的自己評価は子どもへの回避的感情にも影響を及ぼしていた。母子画研究からは安定感の無い母子画と褥婦の情緒の不安定さとの関連がみられた。妊娠・産褥期女性の両価的な認知や感情といった心理状態の要因を明らかにし、妊娠・出産を巡る心理的支援とケアへとつなげていくためアプローチ方法を検討する必要がある。そこで本研究では周産期にかかわる助産師・保健師から現在の妊産褥婦の様子について聞き取り調査を実施し、その特徴を明らかにすることを目的とする。
	研究の結果	聞き取り調査については、助産師5名（病院勤務者または経験者3名、保健センターにおける訪問事業従事者2名）と保健師（保健センター勤務者または経験者）5名に対してそれぞれインタビューを行った。それらの音声データのテープ起こしを行い、現在インタビューの中で語られた内容を分析しているところである。分析は臨床心理士3名にてインタビューの中で語られた内容のカテゴリー化を行い、一致するか否かを検討している。一致しないものについては臨床心理士1名を追加して話し合いを行うこととしている。また母性心理学研究会を正式に発足させ、第1回研究会を開催した。そこではこれまでに行ってきた主に妊産褥婦への質問紙調査（妊娠期の不安や出産の振り返り、マタニティブルーズ傾向、対児感情、母性に関する認知など）研究で明らかにできたことと母子画研究、現在進めている研究における課題について話し合いを行い、母性心理学研究会の今後の方針についても決定した。
	研究の考察・反省	助産師5名と保健師5名にインタビューを行ったが、さらに病院勤務の助産師を中心にインタビュー対象者を増やして、データの収集をすべきであると考えている。そのための訪問時間の捻出がカギとなりそうであるが、地道に時間を調整していきたい。そのうえでインタビュー内容を精査して、そこから妊産褥婦を助産師・保健師がどのようにとらえているかを検討し、その内容は心理学的にどのように考えられるかについて検討する。そこから妊産褥婦の健康度を高めるための実施可能なアプローチ方法を提案できるようにするために、母性心理学研究会にて病院に勤務する助産師を中心にしてディスカッションを行う。また、25年前の妊産婦と現在の妊産婦との比較について論文を作成し投稿していたが、再度検討すべき箇所が出てきたため、精査して論文を作成する。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所  研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	<p>※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。</p> <p>第17回日本ウーマンズヘルス学会学術大会 妊婦における色彩円環家族イメージ画の特徴 2018年8月8日 東京</p> <p>第59回日本母性衛生学会学術集会 妊娠期の色彩円環家族イメージ画の特徴と産後1ヶ月・産後3ヶ月の産後うつ傾向との関連 2018年10月9日 新潟</p>	